



神戸大学災害救援隊 : 先遣隊の活動報告

中尾, 博之

(Citation)

神戸大学ジャワ島中部地震調査 : 最終報告書:79-83

(Issue Date)

2006-10-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

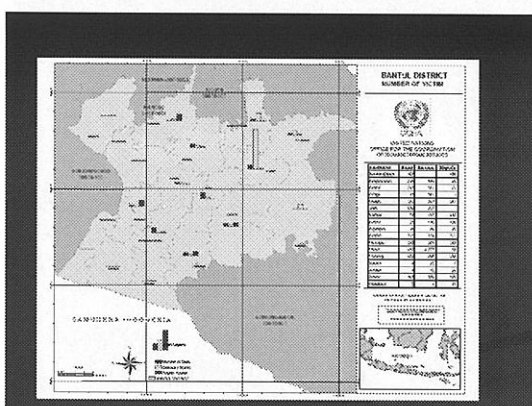
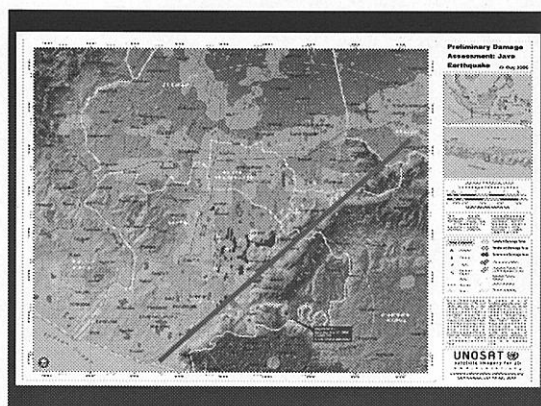
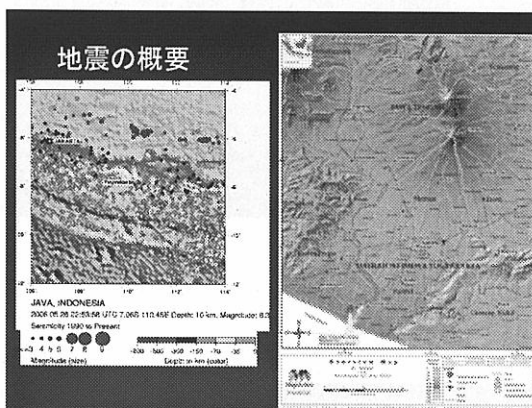
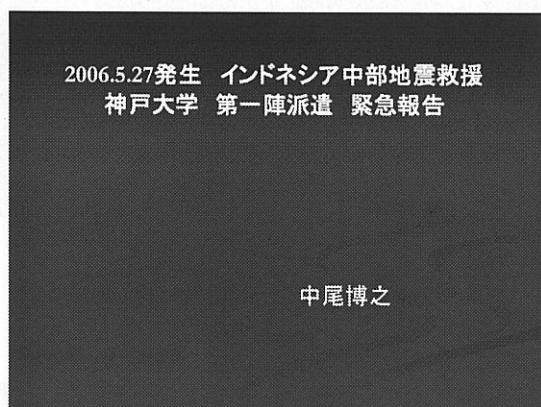
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/80020063>



神戸大学災害救援隊 先遣隊の活動報告

中尾 博之
Hiroyuki Nakao

概要：神戸大学としては、以前より、国内外の災害救援及び調査を行ってきたが、今回は大学としての派遣となった。つまり都市安全研究センター、医学部、工学部、理学部などから大学全体として、インドネシアに出向いた。先遣隊の活動としては、①カウンターパートとの連絡・情報入手、② 後続隊への引継ぎ、③医学部を中心とした以降の方針決定、④医療活動が主な活動であった。実際の活動では、医療は行えなかったが、調査の結果、整形外科手術後のリハビリテーションと小児精神保健の必要性があることが判明した。また、後続隊のガジャマダ大学（カウンターパート）との引き合わせを行うことができた。以下に第1陣帰国報告会でのスライドを示す



神戸大学 緊急援助隊派遣目的

- ・ガジャマダ大学医学部と神戸大学医学部とは多分野にわたり留学生が来邦している。
- ・本学多分野教員が義援している。
- ・ガジャマダ大学医学部と神戸大学医学部の相互協力関係から、工学的・理学的援助も含めた神戸大学の総合的救援を行う。

⇒

- ・先遣隊として、被災地およびガジャマダ大学の状況を調査し、第2陣以降の需要について報告する。
- ・必要とされる物資もできる限り協力し、寄贈する。
- ・被災地での医療活動(特に急性期治療)をガジャマダ大学の要請に応じて行う。
- ・被災地における学術調査を行う。

出発 2006.6.2. 8:00



ジョグジャカルタ 到着



ガジャマダ大学 医学部



附属病院被害状況調査



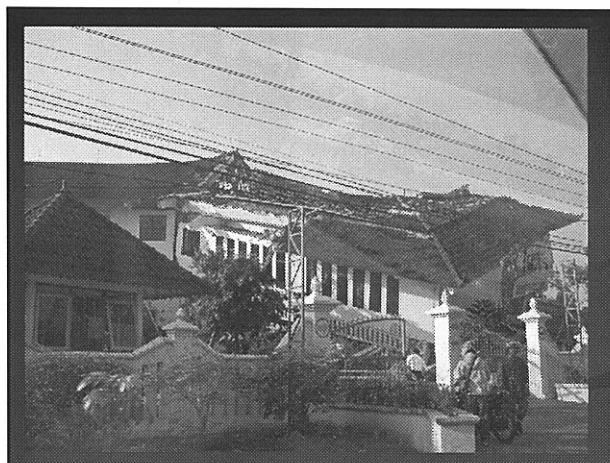
附属病院 救急外来 (6日目)



附属病院 ICU&OPE



郊外の建築被害状況



ブスカスマスを巡回調査



ブスカスマスについて



2006. 6. 4

プスカスマス



帰国 2006.6.11 7:45



先遣隊の成果

- ・被災地における現状を調査した。
- ・ガジャマダ大学から求められた物資を一部提供した。
- ・ガジャマダ大学が第2陣以降に求めるものを調査した。
- (人:精神衛生(特に小児)、リハビリテーション、回復に関する人物:整形外科手術に関する部品、道具)
- ・各種団体(JICA, JMTDR, HAMA, 自衛隊、UGM)間に情報交換を行い、スムーズなやり取りができるように手配した。
- ・被災地を調査し、末端医療の核となるプスカスマスについて、被害状況と今後の復興の可能性について調査・UGMに提言した。
- ・UGMにおける手術について調査した。(整形外科領域が多い)
- ・被災者救護者の健康状態について調査した。

今回の災害の特徴

- ・スマトラ沖津波、メラピ山火山に関する医療従事者がいたため、急性期の医療対応が迅速であった。
- ・避難所で過ごす人が比較的少なかった。(乾季)
- ・非医療分野での復興が早い。(根本的であるかは不明)
- ・整形外科領域の傷病者が約70~80%と多かった。(四肢骨折、脊椎骨折)
- ・頭部外傷の割合は少ない?
- ・被害地域が限定されていた。
- ・家屋の構造と傷病が関係あるかもしれない。
- ・津波が来るというデマにより多数の傷病者が発生した地域もあった。

